

CSRレポート 2013



CSRレポート 2013

編集方針

日経印刷はこのCSRレポートを通して「社会」と「環境」の観点でステークホルダーの皆様の期待にこたえるために取り組んでいる活動を開示することにより、当社の企業活動にご理解いただき、またステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、「人の想いをカタチに」する情報加工産業の価値向上に役立てていくことを目的にしています。

2012年に引き続き2回目の発刊となります。本年度のCSRレポート作成にあたっては、前回の方向性に加えて、当社のお客様との関わり、パートナー会社様との関わりも取り上げました。そして従来から一貫して行ってきた活動とともにより深く繋がった地域社会との連携なども加わり、大きな成果として社会的に認めていただくことができたこともご報告させていただきます。

対象期間

原則として、2012年度（2012年1月～2012年12月）の活動を対象期間としていますが、一部2013年のデータも含まれています。

報告対象分野

本レポートは日経印刷の社会・環境に関する取り組みを対象としています。

会社概要

会 社 名	日経印刷株式会社
代 表 者	代表取締役会長 林 吉男 代表取締役社長 吉村 和敏
本社所在地	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5 TEL 03-6758-1001 FAX 03-3263-5814
創 業	1964年10月
資 本 金	9,750万円
売 上 高	90億8,000万円（2012年12月期）
従 業 員 数	402名（2013年4月現在） （パートアルバイト含む）
グループ会社	印刷通販株式会社（ユアプレス）
加 盟 団 体	東京商工会議所 東京都印刷工業組合 日本グラフィックサービス工業会 グリーン購入ネットワーク（GPN） 日本WPA（日本水なし印刷協会） 日本電子出版協会

業務内容

企画・デザイン、編集、ライティング／DTP、出力等プリプレス工程全般／オフセット印刷（枚葉）／プリント・オン・デマンド／製本一式／表面加工／紙器・加工／仕分・梱包・発送／CD、DVD等メディア制作／Web制作／電子出版／白書製造請負、出版・販売／印刷通販業務全般

事業所

グラフィックガーデン

〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16 TEL 03-6758-1000

ハイデルベルグフロント

〒135-0023 東京都江東区平野2-3-14 TEL 03-6758-1004

浮間工場

〒115-0051 東京都北区浮間2-15-8 TEL 03-6758-1005

DTPスタジオ

〒383-0042 長野県中野市西条1315 TEL 03-6758-1006

グループ会社

印刷通販株式会社

〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16
TEL 03-6758-1010 FAX 03-5392-6328
<http://www.yourpress.jp>



ご意見・お問い合わせ

日経印刷のCSRへの取り組みについて、ご意見・ご感想をお寄せください。CSR活動やCSRレポートの改善にいかしてまいります。

発行月 2013年7月

所轄部署 日経印刷株式会社 管理本部 総務部

連絡先 TEL 03-6758-1001

FAX 03-3263-5814

目次

トップメッセージ 4

トピックス1

第11回印刷産業環境優良工場表彰
— 経済産業大臣賞受賞 — 6

トピックス2

工場見学 — グラフィックガーデン見学会2012 — 7

環境配慮(省エネルギー・ゼロエミッション・他) 8

お客様とともに(持続的成長を目指して) 10

パートナー会社とともに(日経印刷の調達方針) 12

地域・社会とともに 13

従業員とともに 14

日経印刷の情報

日経印刷ウェブサイト <http://www.nik-prt.co.jp> の各コンテンツをご覧ください。

個人情報保護方針

<http://www.nik-prt.co.jp/company/privacy.html>

品質方針、環境方針、ISMS基本方針

<http://www.nik-prt.co.jp/company/social.html>

認証取得

ISO 14001 : EMS

ISO 27001 : ISMS (本社・グラフィックガーデン)

プライバシーマーク認定 (JIS Q 15001)

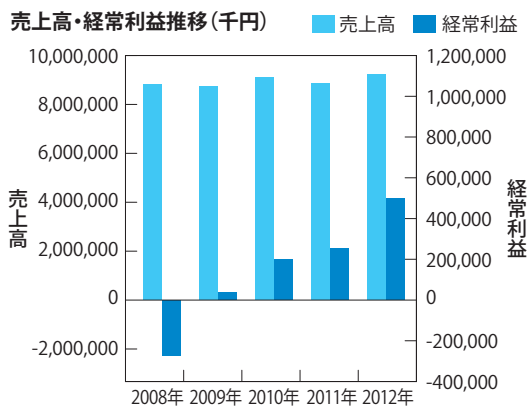
FSC® COC 認証

グリーンプリンティング工場認定 (グラフィックガーデン)

Japan Color 標準印刷認証 (グラフィックガーデン)

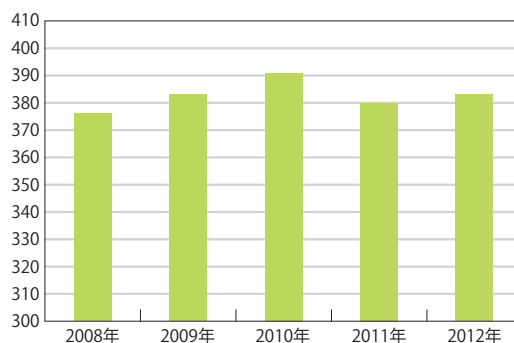
Japan Color ブルーフ運用認証 (グラフィックガーデン)

売上高・経常利益推移(千円)



※2008年は、グラフィックガーデンの建設など大規模な設備投資によるもの

社員数(人)



※パートアルバイトは除く

自分たちの「強み」を再確認し、 さらに成長する年へ。 そして社会の更なる発展に寄与し続ける。

環境優良工場表彰を受けて

日経印刷は昨年、このCSRレポートを創刊し、同時に印刷業界の中で環境の最高賞である日本印刷産業連合会 印刷産業環境優良工場表彰 経済産業大臣賞を受賞することができました。これもひとえに従業員をはじめその家族の皆様、そしてお客様、パートナー会社の皆様、工場近隣の皆様……と我々とともにあるステークホルダーの皆様のご理解とご協力があっての賜物であると感謝しています。

日経印刷が創業以来一貫して取り組んできた改善マインドの育成、それが風土として定着し受け継がれてきている中でのNPS活動やゼロエミッション、Neco-Project（省エネ）、そして環境対応印刷と含有化学物質管理、それらが日常管理の中で会社の仕組みとしてしっかりと運営されていることをご評価いただくことができました。

印刷業界における環境優良工場の頂上になったわけですが、ここが終着点ではありません。逆にこの環境優良工場表彰を汚すことないように心掛けねばなりません。行ってきた活動はさらにブラッシュアップして継続させ、さらに環境にやさしい活動、また環境だけに留まらず、社会貢献に繋がる活動を推進してまいります。

第二の創業

おかげさまで日経印刷は来年の2014年10月に50周年を迎えます。その節目の年を迎える前年に日経印刷はトップの世代交代を行い新たな船出をいたしました。今年は第二の創業とも言えます。日経印刷は「夢ある豊かな未来の実現」のために、共に働く従業員とお客様、地域社会とともに

新たな価値を作り出し、社会に持続可能なビジネスモデルを提供することを目指し、企業活動を展開してまいりました。ここでもう一度、足元を見つめなおすために、2013年のスローガンを「自分たちの強みを見つけ、さらに伸ばしていこう」としました。長年ご愛顧いただいていること、そして長年皆様に支え続けていただいていることを改めて思い起こし、そのわけを全員で知ること一つあります。内部的には、従業員一人ひとり、そしてチーム、課、部、本部、そして全社の「強み」を再確認し、「弱み」を無くし、みんなで成長することとしました。自分の「良いところ」、「悪いところ」は自身ではなかなか正確に把握することは難しいものです。ましてや人は長年同じ環境に染まってしまっているとそれが当たり前となり、さらに経験や立場が邪魔して、自分自身の良し悪しの判断がつかなくなってしまいがちです。ここを素直に謙虚な心でお互いに教えあう、教えていただく、そして自分自身を客観的に見詰め直して成長する年にしました。

一人ひとりの成長そして役割で貢献

日経印刷は今年、新たな人事制度の運用を開始しました。人事理念をもとに社員の成長が会社の成長、如いては豊かな未来の実現に繋がる制度の再構築を進めています。日経印刷に存在する従業員一人ひとりにはそれぞれ役割があり、それを日々務め、またその幅を広げることで貢献してくれています。この新しい制度では、従業員一人ひとりが自分の役割をしっかりと認識すること、そしてその役割をこなせるように知識・スキルを身につけること、さらに独りよがりになることなく、積極性や協調性、リーダーシップを身につけ人間性も成長するこ

企業理念

個人の尊重と自主独立
改善そして完全性の追求
最善をつくして顧客へのサービス
公正な購買取引きの慣行
社会への貢献

行動規範

私たちは自ら考え、進んで行動します
人の意見や価値観を柔軟に受け入れ、
環境の変化を冷静に捉えて進化します
完璧なものを世に送り出すことを目指し、
更なる改善に努めます
広く社会に必要とされる存在であるために、
日々の仕事に取り組みます

と、これらの成長の結果、実績指標が向上することを狙っています。新しい人事制度は、教育と評価と報酬が一体となったものになるようにこれからもブラッシュアップしていきます。従業員一人ひとりが“自ら考え進んで行動”できる人財となり、我々の企業理念と行動規範の本質を理解し、日々行動することにより、社会の更なる発展に寄与できるものと信じています。

皆様とともに

我々は、我々の事業の根幹である「紙にインキをのせる」印刷という「ものづくり」を通して、社会にその存在を認めていただいております。「お客様の想いをカタチにする」……より良い情報のカタチとして良品を適正な時間で適正な価格で世の中にご提供し続けること。そして雇用を守り、従業員そして家族も守ること。パートナー会社の皆様とも公正なお取引を行い良好な関係を継続すること。地域環境に悪い影響を与えぬ努力を常に行い、近隣住民の皆様とも共存共栄し続けること。すべてのステークホルダーの皆様とともに日経印刷は在り続けられるように事業活動に注力していきたいと思っております。今後とも全従業員とともに皆様のご期待に添えるように歩んでまいります。

日経印刷株式会社 代表取締役社長

志村 和敏





第11回印刷産業環境優良工場表彰

— 経済産業大臣賞受賞 —

2012年、日経印刷のフラグシップ工場であるグラフィックガーデンが印刷産業優良工場表彰に応募し、念願の最高賞である経済産業大臣賞を受賞いたしました。

この工場を通じて、今後も地域社会への貢献を広げていきます。

取り組み

当社は環境配慮に関して、特定の分野だけではなく、総合的に環境対応レベルの高い企業を目指し活動してきました。特に今回受賞した事業所は創業者 林により、環境に対する思いや夢を実現するための場所として「グラフィックガーデン」と名付け作り上げられたものです。この事業所が環境優良工場表彰において経済産業大臣賞を受賞できたのはハード面のみが優れているからではなく、そこに集う従業員の行動（ソフト面）をご評価いただけた結果であるといえます。例えば、品質、生産性の向上を目的とした「改善活動」、その進化形より身近な「創意工夫活動」もそのひとつです。これらの活動で、資源のムダをなくし、生産時間の短縮にも繋がったことが環境負荷低減の大きな成果となっています。

グリーンプリンティング (GP) 認定工場

環境優良工場を目指す上で、業界基準をクリアしていることは必須でした。印刷業界での環境配慮基準を定めている日本印刷産業連合会（以下日印産連）のGP認定を2012年3月に取得することができました。それまで日印産連との直接的連携はありませんでしたが、印刷に関係する法規制を調べる際、日印産連が発行している「印刷産業における環境関連法規集」は最も頼りになる1冊でした。またGP認定では、製品認定制度もあり購入する資材が認定されていればより安心して購入できます。

さらにGP認定工場となると、自動的にグリーン購入法の印刷役務の環境配慮基準を全て満たしていることにもなります。



表彰を受ける吉村社長（左）と林会長（右）

人にやさしい工場

①働く従業員にやさしい

工場の床はコンクリート直や塗り床の仕上げが一般的ですが、グラフィックガーデンでは、オペレーターの健康に配慮し、より楽に、より楽しく良い製品を作れる環境となるように、生産スペースは全てフローリングにしました。

②近隣の皆様にやさしい

近隣の皆様のオアシス的存在になればと思って、歩道側緑地帯の角に信号待ち用にベンチを作りました。広い搬入ヤードは、祭り

の神輿等の休憩場所としても提供しています。また週に2度、有志による近隣清掃を行っています。

③未来ある子供たちにやさしい

グラフィックガーデンでは、さまざまな中学校、高等学校などからの職場体験や、インターンシップを広く受け入れています。小学校の生徒さんたちには、社会科見学として印刷物ができる工程を理解してもらっています。

今後目指して行く方向

板橋区の産業観光事業との連携が深まり、いつでも見学できる工場として区のウェブサイトで紹介されています。2013年には板橋区主催の産業観光バスツアーでもグラフィックガーデンが見学ルートの一箇所となりました。これからも地域とともに環境を守っていくリーダーシップ的工場であり続けます。また環境だけに留まらず、コンプライアンスはもとよりCSR全般において、社会貢献活動を進め企業価値向上に努めていきます。

経済産業大臣賞受賞理由

日本印刷産業連合会ホームページより抜粋

本工場は、東京都にある2008年に操業を開始した枚葉オフセット印刷機を有する中堅の総合印刷工場である。環境配慮をコンセプトに省エネや騒音対策、土壌汚染対策など最先端の技術が導入されている。工場の運営に当たっては経営者の強い取組み意思のもと、ISO14001、GP認定工場などのマネジメントシステムを構築、目的目標の水準が高くPDCAが確実に回っている。5S、提案、技能検定、表彰制度などの小集団活動も積極的で、業界のトップレベルの工場として運営されている。具体的事例として、デマンドコントロールによる印刷機の直接的制御や小集団活動により生産高電力原単位は2010年比19%削減、日常発注業務システムへの化学物質管理の構築、ゼロエミッション工場の実現、区役所HPとの連携による工場見学の受け入れなど、ハード・ソフト両面での高水準な活動が認められた。これらのことから、業界のモデル工場として総合的に判断して経済産業大臣賞に推薦するものである。

印刷産業環境優良工場とは

（社）日本印刷産業連合会では、印刷産業界における各企業の環境問題に対する取り組みを促進するとともに、印刷工場環境改善及び印刷企業に対する社会の 一層の支持・理解を獲得することを目的に、平成14年度から印刷産業環境優良工場の表彰制度を実施しています。

トピックス2

工場見学

— グラフィックガーデン見学会2012 —

グラフィックガーデンは、企画制作から印刷、製本、そして発送の工程をワンストップサービスでご提供できるのが大きな特長です。また、最新設備を有し、さまざまな改善活動で作業の効率化を図っている様子もご覧いただけることから、工場見学会を定期行事として開催しました。

「グラフィックガーデン見学会」

グラフィックガーデンの見学ポイントは、まずは、竣工後4年半を経てもなお美しい外観と内部、そしてその機能性の良さにあります。4階から1階へと製品加工の流れに沿って最新の設備や人員が配置されていて最短の動線で製品が作られる「ワンストップ」の生産ラインが見どころの1つです。

毎回、お客様の「声」にあるメッセージをテーマとして企画し開催しました。以下のように2月の開催を皮切りに11回におよぶセミナーと見学会を開催し、多くのご来場者をお迎えすることができました。

グラフィックガーデン見学会2012年度 開催実績一覧

開催日	テーマ	社数	人数
2月15日	グラフィックガーデン 第1回見学会	30	49
4月20日	グラフィックガーデン内覧会と落語の夕べ	24	39
5月22日	デジタルコンテンツを売るヒント！最新事例紹介	9	24
6月08日	体感！印刷現場における環境対応	36	80
7月12日	グラフィックガーデンに来ませんか？印刷のすべてが180分でわかります！	14	22
7月26日	ユニバーサルデザイン 活用のヒント～概要と最新事例紹介～	17	31
9月13日	印刷の基礎知識が見ながら学べるグラフィックガーデン見学会	34	60
9月26日	ソーシャルメディア時代の新しいコミュニケーション	16	23
10月11日	第2回 印刷の基礎知識が見ながら学べるグラフィックガーデン見学会	20	30
11月08日	CSRセミナーと環境優良印刷工場見学会	42	53
11月26日	川渕 孝一先生が見る“今、元気がいい病院はここだ！”	7	12
合計		249	423

見学会の一部について、以下にその内容をご紹介します。

▶『グラフィックガーデン内覧会と落語の夕べ』

『グラフィックガーデン内覧会と落語の夕べ』と題し、印刷工場での催事としては異例ですが、真打の古今亭文菊師匠をお迎えし、古典落語をご観賞いただきました。

印刷工場の紹介にどうして落



落語の夕べ



語？といった声も聞かれましたが、それぞれの道のプロ、匠の技を間近で観賞することで、新鮮な体験としてその道の文化を再発見できました。

▶『体感！印刷現場における環境対応』

印刷メディアの多様化や電子化が進む中、長年人類の歴史や文化継承を支えてきた印刷物は、今や、資材の調達から廃棄に至るまで環境保護という社会的ニーズに応えていくことが求められています。セミナーでは、「高まる環境ニーズと印刷会社の対応事例のご紹介」として、お客様から寄せられた多くの環境要求をご紹介しました。



印刷現場における環境対応セミナー

▶『CSRセミナーと環境優良印刷工場見学会』

CSRセミナーとして、「CSR経営のリスクと機会に関する最新動向」についての講演と、当社の第11回の印刷産業環境優良工場表彰での「経済産業大臣賞」受賞報告を開催しました。今後、より重要性を増すCSR活動や環境ニーズについて、その理解度を深めていただきました。



CSRセミナー

▶見学会の今後について

実施したご来場者アンケートの集計結果から、共通したご感想として、「他の工場とは全く違う」、「工場がすごくきれい」、「社員の明るい挨拶がいい」など、好感を持っていたいただいたコメントが多かった反面、「見学会の滞在時間をもっと増やしてほしい！」というご要望もいただきました。

2012年の見学会を振り返り、継続すべきことと改善すべきことを整理し、課題を解決しながら2013年度も定期行事として工場見学会を開催していくこととしました。

詳しくは当社のウェブサイトからご案内する予定です。より多くのご来場者をお待ちしております。

環境配慮(省エネルギー・ゼロエミッション・他)

震災後に取り組んだ省エネルギー活動、2006年から取り組んでいるゼロエミッション活動を継続するとともに、働く従業員の安全安心を今後も守っていきます。



省エネルギー

Neco Project (省エネルギー活動)

2010年に会社全体として、省エネ法における特定事業者指定されました。その後、東日本大震災での東電福島原発被災の影響により電気事業法の使用制限令が発令され、グラフィックガーデンはその指定工場となりました。15%以上の節電指示に対し、従業員協力のもと19.5%の削減を達成することができました。しかし2012年は、日本全体での原発稼働停止を受け、化石燃料原料の価格高騰、さらに円安による燃料費の高騰により、大幅な電気料金値上げとなってしまいました。この対策として、再度省エネに取り組むべく、新たな節電ガイドを作成し、社内を活性化しました。具体的施策としては、ガス使用量削減のために震災後の夏季はボイラーを停止しました。この施策は引き続き行っています。また、本社では、40w蛍光管674本と20w蛍光管をLEDと同等のCCFL管に交換し、これにより年間の削減が45kwhで107万円と改善されました。



CCFL管

エネルギー原単位

2009年4月に改正された省エネ法において企業全体のエネルギー使用量が1,500kL/年以上の企業はエネルギー使用効率を毎年1%以上改善するよう、努力義務が定められています。日経印刷では1単位売上高をあげるために使用するエネルギー量をエネルギー原単位と定義しました。2011年秋から2012年冬にかけてLED-UV乾燥装置付カラー印刷機を2台導入したことにより、グラフィックガーデンのエネルギー使用量は増加しました。しかしこのエネルギー原単位で管理することにより、生産設備を増設しても、エネルギーの使用が適正か判断することができ、無駄なエネルギー使用の削減を一定の指標でもって進

めることができています。省エネ法の努力義務は毎年1%削減ですが、現在年平均8.6%の削減ができています。



ゼロエミッション

事業所によって種類の差はありますが、廃棄物・リサイクル分類は年々増加し現在32種類となり、分別を徹底し環境負荷低減にさらに貢献することができています。

このようにコツコツと積み上げてきた活動の結果、リサイクル率は全事業所合計で97% (2011年) から99.5%となり、ほぼゼロエミッション達成と言える状態までになりました。

3R (リデュース、リユース、リサイクル)

3Rと言うどうしてもリサイクルばかりに目が行きがちですが、環境負荷を考えるとリサイクルよりリユース、リユースよりリデュースに、力を入れた活動が望まれます。溶剤類の購入で言えば、各パートナー会社の方々と交渉し、殆どの溶剤類を通い缶にしてリユースしています。リデュースですが、印刷機のブラシによるブランケット (インキを転写する部位) の洗浄は溶剤を大量に使用することになります。当社では印刷機導入計画時に仕様を確認し、洗浄装置がブラスタイプになっている場合、環境負荷低減となる布タイプの洗浄装置に改造を行っています。この効果は予想以上に大きく、2007年のカラー印刷機 (ブラシ洗浄タイプ) と比較して現在の布洗浄タイプでは、1ユニット当り88%の溶剤の使用を削減することができました。またリデュースとしても1つの事例は、特色インキを作成する調色機 (調色名人：谷口インキ社製) の導入です。ベースインキの配合率をすべてデータ管理することで再製作時も同じ配合率で特色インキが作れるため、環境負荷が最も大きい色違いによる刷り直しがなくなりました。



調色名人



化学物質の安全使用

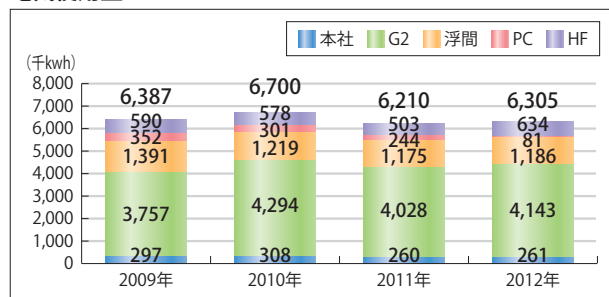
2012年、大阪の印刷会社で胆管がんにより多くの方が亡くなったという報道がありました。当社でもその報道を受け、すぐに原因と思われる塩素系溶剤の過去の使用状況を調査しました。ジクロロプロパンについては使用実績がなく、ジクロロメタンについては、一部の部署で2003年に極少量テスト使用をしていたことが確認されましたが、問題のない数値でした。



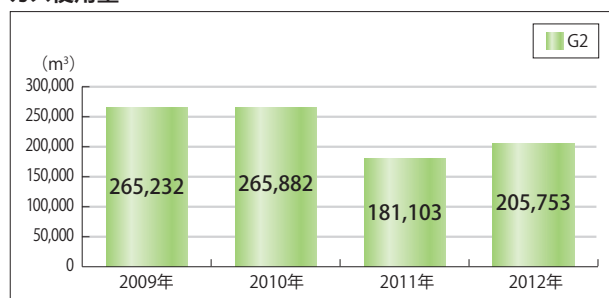
環境データ

INPUT

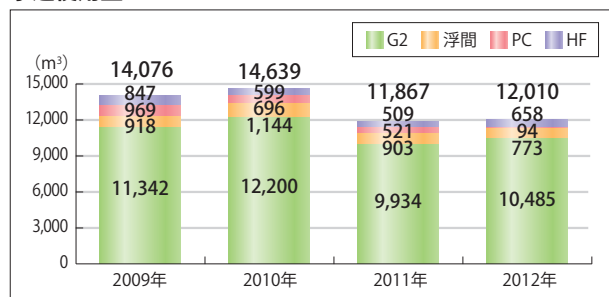
電気使用量



ガス使用量



水道使用量



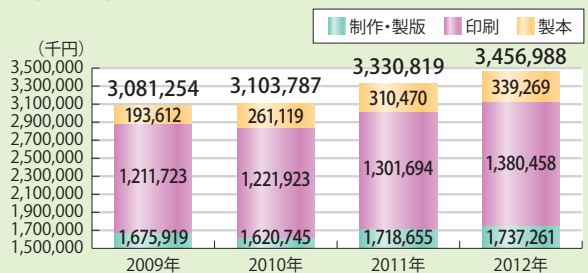
G2 : グラフィックガーデン
浮間 : 浮間工場
PC : プリンティングセンター
HF : ハイデルベルグフロント

排出係数

電気 : 東京電力2011年度排出係数 (0.000375t-CO₂/kWh)
ガス : 環境省 温室効果ガス算定・報告マニュアルより
千Nm³×単位発熱量 (45) ×排出係数 (0.0136) ×44/12
水道 : 東京都水道局排出係数 0.2kg/m³

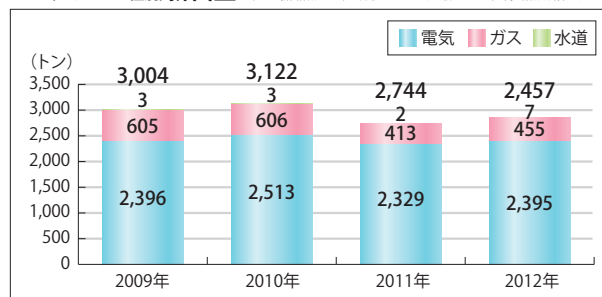
副産物計 : リサイクル計 + 廃棄物計
リサイクル率 : リサイクル計 ÷ 副産物計

全社生産高



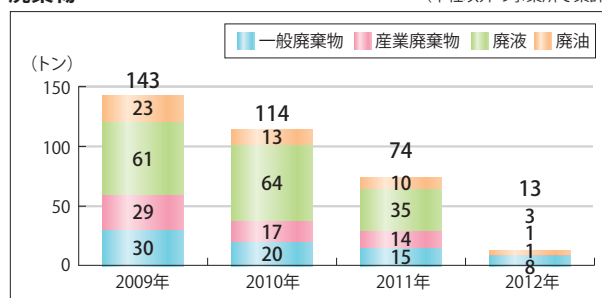
OUTPUT

CO₂ (エネルギー種別) 排出量 (CO₂の排出係数は11年に改定されましたが、比較のため全年と同じ係数で計算しています)



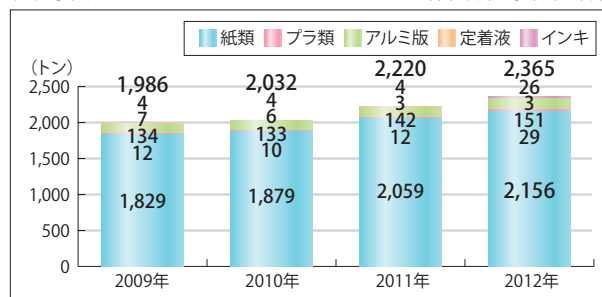
廃棄物

(本社以外の事業所で集計)



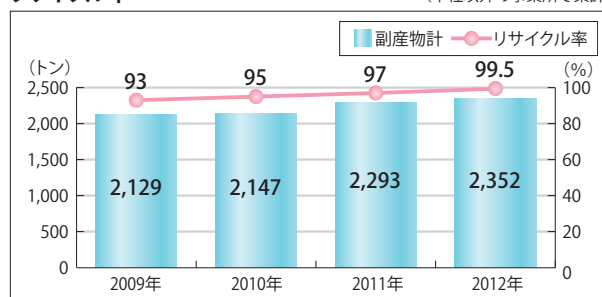
リサイクル

(本社以外の事業所で集計)



リサイクル率

(本社以外の事業所で集計)



お客様とともに（持続的成長を目指して）

企業が社会的責任を果たす上で、「持続的な成長」が最も重要です。安定した経営基盤があってこそ、従業員はもとよりお客様、社会や地域への貢献が可能となります。健全な事業を継続するために、「お客様の声」に耳を傾けることで時流を捉え、ニーズを考慮した事業に取り組んでいます。



お客様ニーズを より早く正確にキャッチするために

平成23年に総務省が発表した都道府県別事業所数の統計によりますと、東京都にある事業所数は約700,000、全国の11.5%の事業所が東京都に集中しています。また、業種もさまざままで特有の業界文化を築き上げ日本の経済を支えています。日経印刷は、この東京の地を創業以来のマーケットエリアに設定し、「お客様の声」を聴くことが時流に乗る最善の方法と心得て営業をしてまいりました。

お客様の声を正確に理解するにあたっては、お客様の業種業界を知ることが肝要です。お客様が話される言葉だけでなくその背景にある業界事情などを理解することによって、はじめてお客様の声を正しく正確に聴くことができ、ニーズにマッチした生きたソリューションをご提供することができます。

お客様志向（User-Oriented）の営業体制

当社の従業員数は2013年4月現在で402名ですが、その3割弱にあたる100名超の営業社員が主に東京都内に事業所を持つお客様に対して、コミュニケーション密度の高いスピーディな営業サービスを展開しています。

当社営業の特長と強みは、出版業界をはじめ、証券・生保の金融業界、医薬系業界、学校や塾などの学参業界、各種の製造業、デザイン・広告業界など、お客様の業界に特化・精通した小集団の営業組織で構成されている点にあり、固有の業界にあるお客様との接点を多く持つことで、より集中的に学び、知り、考え、そして提案できる永続的な専門営業の役割を果たしていることです。

専門営業だからこそ、お客様と同じ目線で課題や問題を把握し、お客様当事者に見えない第三者としての多くの気付きがあり、お客様への積極的な提案があります。企業としての差別化は、製品の品質と、スピードやセキュリティなどのサービスを含めた企業の総合力が発揮できてこそ、お客様には真に評価

されるものと考えています。

今後もお客様志向の営業体制を強化しながら、お客様には安心の品質とサービスをご提供してまいります。

環境共生 — 環境配慮へのニーズ

地球環境問題は、国内だけでなく、海外でも社会問題として頻繁に取り上げられ、国際的な重大関心事として議論されています。

足元に目を戻しますと、印刷会社を取り巻く問題として、森林伐採による環境破壊や、地域周辺への震動や騒音、そして有害物質、産業廃棄物の処理などがあり、具体的な実効性のある対策が求められています。

一方、お客様にあってはそれぞれの事業の目的や内容により抱える環境対応の問題があり、ご相談件数も年々増加傾向にあります。

環境配慮に関する代表的な「お客様の声」

	環境配慮に関するお客様の声
1	環境法規制が厳しい海外で使用する印刷物なのだが、禁止物質が含まれていないことを証明して欲しい 【メーカー様】
2	複数の環境ラベル使用をユーザーから求められているのだが、そちらで対応できるか？ 【広告代理店様】
3	製品製造に使用するエネルギー量や、CO ₂ の排出量を教えて欲しい 【出版社様】
4	環境法規制を順守し、環境管理がきちんとできている企業であることを証明して欲しい 【官公庁】

これらお客様の声は、環境項目が列挙された調査書への回答要請や製品安全データシート*（MSDS）のような証明書の発行という形で要求されますが、高い環境基準をクリアしていることが印刷会社の条件となりつつあります。

日経印刷は、2008年8月のグラフィックガーデンの竣工を契機にそれまでの環境保護の活動を加速させ、水なし印刷や有害化学物質の削減、分別廃棄によるゼロエミッション活動、間引き照明やこまめな消灯などの節電に代表される省エネ活動などに取り組みしました。それら長年の地道な活動による成果が認められ、2012年の第11回 印刷産業環境優良工場表彰に

て、最高賞である「経済産業大臣賞」を受賞することができました。これからも環境配慮への取り組みを継続し、社会に貢献できる企業として期待に応え、その役割を果たしてまいります。

環境製品の提供 — FSC® 認証紙出荷量の推移

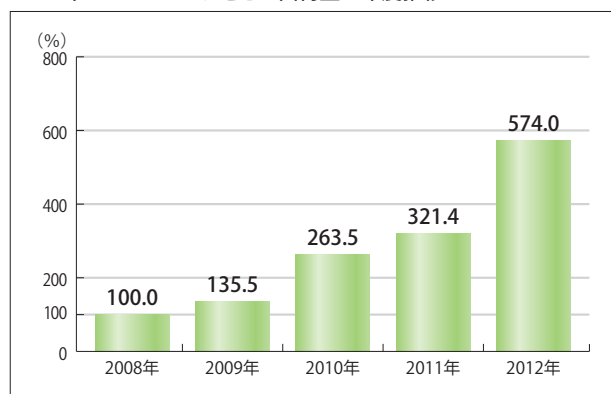
環境製品の1つに、印刷物の用紙にFSC認証紙の使用要求があります。当社は、2003年12月にISO14001認証を取得し、事業の方針として環境への取り組みを明確にしました。その後2007年6月には、FSC-COC認証を取得し、森林認証製品の取り扱いを開始しました。

FSC認証紙を印刷物にというニーズは近年の傾向でもありますが、2008年を100としたときのその後の認証紙の取扱量の増加率の推移は以下のとおり、当社での実績値ではありますが4年で約6倍近い数字に膨れ上がっています。環境に対する各種業界からのニーズの1つとして、これからもFSC認証紙の使用量に関する動向に注目していきます。

FSC認証紙出荷量 (kg)

年度	2008	2009	2010	2011	2012
出荷量	62,945	85,279	165,663	202,315	361,074

2008年を100%にしたときの出荷量の年度推移



高いIT技術を背景とした情報セキュリティ

近年のインターネットとクラウドコンピューティングの発達で企業活動の範囲は飛躍的に拡大しましたが、その一方で、企業での情報管理の重要性は益々高くなってきています。

日経印刷では2009年にISO27001 (ISMS) の認証を取得し、2006年2月に取得したプライバシーマーク付与認定と併せて管理体制を再整備しました。

セキュリティや免震などの物理的安全対策を完備した百数十テラバイト (1tera = 10^{12}) のサーバを完備し、それを管理する高いIT技術の蓄積が加わって情報の保持と管理の質を飛躍的に高



グラフィックガーデン内のサーバールーム

めました。

さらに、グラフィックガーデンは機密性の高さや監視設備もあり、国家試験クラスの問題や回答用紙の印刷物についても、安心してご用命いただくことができます。

機密情報及び個人情報の安全管理

情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の各種規格や個人情報保護マニュアルなどに則り、厳密な情報管理手順によって、取得>移送>利用>保管>返却>廃棄の情報ライフサイクルにおける厳重管理と運用を実践しています。機密保持を要するお客様の情報資産は、各工程の当事者間の直接手交で授受し記録を残すなどの基本動作を徹底的に順守し、物理的管理策と人物行動に対する管理策を徹底するなど、情報漏えいの脅威には特に注意を払っています。



持続的成長と お客様満足 (CS) のために

公益社団法人日本印刷技術協会 (JAGAT) の集計によりますと、2008年に69,000億円あった印刷産業出荷額が、2011年には55,000億円に縮小していることが報告され、この傾向はデジタル印刷や電子書籍の出現で、縮小に拍車がかかっている状況があります。印刷業界にとっては先の見えない時代であり、更なる企業努力が要求されています。

しかしながら、出版物の電子化の波がある一方で、成長型業界においては紙メディアに対する根強い印刷ニーズは健在であるなど、明るい材料も数多くあります。紙媒体と電子媒体はその使用目的、対象に応じて、それぞれの特性を活かして使い、時には両者を相互補完的に使うことが有効という考え方を支持し、紙媒体が必要というお客様に対し、お客様のその先のお客様の満足 (B to B to C) を勝ち取れるような、新しい付加価値の営業サービスのありかたを模索しつづけることで、持続的成長とお客様満足を実現できるよう、印刷業界全体の発展に寄与してまいります。

※2012年6月1日より従来の「MSDS制度」が改正され「SDS (安全データシート) 制度」に移行されています。

パートナー会社とともに(日経印刷の調達方針)

日経印刷は、パートナー会社の皆様とコミュニケーションを図りながら、品質、納期、環境保全の維持向上に共に取り組んでいます。



パートナー会社との協業

公平な契約

当社が安定した企業活動を行っていくには、パートナー会社との協業は不可欠です。そのため、全てのパートナー会社に対して公平な機会を設け、公正・透明な発注・購買活動を行っています。

新規のお取引としては、新規会社による売込み、紹介者による売込み、ウェブサイトからの売込み、当社からのアプローチなど可能な限り広く多くのお話を伺い、パートナー会社としての可能性を探っています。

パートナー会社への発注と評価

お客様の要求品質を満たすために、パートナー会社の特性に合った案件を適正な量で発注することを心がけています。パートナー会社には、契約時にそれぞれの特徴を把握できる資料を提出していただき、さらに当社からの聞き取り、現場確認、製品検査、立会いを定期的に行って、事業特性と品質を確認しています。

取引継続中のパートナー会社に対する評価は、毎月1回、事実に基づいて、合議制により適正に行い、努力・成果に見合うような発注を心掛けています。

また、公正を期すためにパートナー会社との窓口である生産管理部は、贈答品受領、飲食関係を一切お断りしております。協業関係を永続的に行うためにあえて厳しく律し、各社の仕事の品質で適正な評価を行っています。

その他、環境面ではグリーン調達案件でなくとも、使用禁止物質は使用しないよう、啓蒙活動も行っています。

特殊案件の発注

FSC®案件、機密保持契約案件、個人情報案件、その他個別に指定、制約がある案件をパートナー会社に委託する際は、事

前に各調査票を記入、提出いただいて、現地調査、必要があれば契約書を交わしています。

また、お客様の発送先リスト等、個人情報を含む機密情報に関しては、社内機密規定に従い、機密保持契約書を締結し、適正な管理の厳守を要請しています。

グリーン調達案件を依頼しているパートナー会社には、毎年1回訪問し、インキ、溶剤、針金、製本糊等に有害物質が含有していないかを確認させて頂くとともに、それらの有害物質を使用していない証明書の提出も依頼しています。昨年は、大阪の校正印刷会社から胆管がんの発生がありましたので、ジクロロメタン、ジクロロプロパンの使用を重点的に確認しました。結果として印刷4社、製本11社のパートナー会社を巡回し、それらの使用は一切ありませんでした。

グリーン調達の定義

資材の調達・購入に際して、より環境負荷の少ない材料・部品・製本を優先的調達・購入する取り組みのこと。

下請法の順守

下請法とは、正式名称を「下請代金支払遅延等防止法」といい、下請事業者を保護する独占禁止法の特別法です。

パートナー会社への作業委託に関しては、発注者は「下請法の順守」が求められます。

当社のパートナー会社の9割が下請法の対象に該当しますので、発注者である生産管理部員への下請法の勉強会、「やってはいけないこと」の個別事例紹介を行い、法令に適合した帳票、書面の整備を行って、順守を心掛けています。

購買先

購買品に関しては、安定供給を第一に市場が要求する原材料の品質、機能等に関心をもち、適正な価格で購買することに努めています。

調達の際、知り得た情報に関しては、不当な競争にならぬよう適性に管理して、公正・公平な購買を行っています。

地域・社会とともに

グラフィックガーデンをはじめ、本社、HF工場、浮間工場、DTPスタジオの全事業所で地域社会・近隣の皆様に当社事業活動へのご理解を深めていただき地域社会との共存・共栄を目指した取り組みを続けています。



地域社会とのつながり

日経印刷が日常業務に根ざし、継続的にいえる地域への貢献とはなんだろう?と考えた時に出てきた答えは、「一貫して行ってきた改善活動や環境対応をご覧になっていただく、その中でものづくりを理解していただく」というものでした。

地元との連携

2012年3月、板橋区より産業観光事業へのお誘いをいただきました。板橋区は印刷や光学、精密機器など、23区中屈指の産業集積地です。特に印刷関連産業の出荷額は日本一を誇ります。区内の企業や工場を見学することにより、工場や機械、産業製品等を通じて日本のものづくりの心に触れてもらい、人と産業が共生できる街づくりを目指す、という趣旨です。日経印刷はこの趣旨に賛同し、グラフィックガーデンを産業観光ができる工場として板橋区に登録しました。これにより、一般の方々にも工場の見学が可能となりました。そのご案内が板橋区のウェブサイトや「観光いたばしガイドマップ」に掲載されています。

2012年5月には坂本健板橋区長が工場の視察に来社されました。また、東京都産業労働局商工部による工場視察をはじめ、産業のまちネットワーク推進協議会など各方面からの視察をお迎えしています。

(産業観光事業の詳細は板橋区HPをご覧ください。)

2013年3月にはグラフィックガーデンは板橋区産業観光バスツアーのコースに選ばれました。厳正な抽選の結果選ばれた板橋区及び近隣の平均年齢66歳の好奇心旺盛な方々20名をお迎えし、約2時間の工場見学を行いました。



坂本 健 板橋区長 (中央)

若年者就業支援

若者の職業的自律を支援する取り組みを行う企業として東京

都の若者ジョブサポーターに登録しています。これは、企業と行政が一体となって若者の就業を推進していくものです。その具体的な取り組みとして、インターンシップや職場体験の受け入れを積極的に行っています。

2012年インターンシップ、職業体験受入状況

時期	団体・学校・学科	人数	内容	事業所
2/2~2/3	東京都立高校	1	製本	G2
2/1~2/3	埼玉県立工業技術高校	2	製本	G2
3/27~3/29	東京都立高校	6	製本	G2
6/19~6/26	埼玉県立高校	2	製本	G2
6/11~6/15	職業能力開発センター	2	印刷	各事業所
7/10~7/11	都立高校	2	製本	G2
7/17~7/23	障害者就労支援施設	1	製本	G2
11/8~11/14	都立工業高校	2	印刷	各事業所
11/12~11/16	私立中学校	2	製本	G2
12/13~12/14	都立工業高校	1	印刷	各事業所



インターンシップ風景



小学生見学風景

工場見学

また、小学校の社会科見学や中学生の職場訪問から専門学校生、大学生の進路選択まで、さまざまな段階で職業観を育て次世代のものづくりを支える若者を迎えています。近隣の学校の方から「見学できる工場が少なくて困っている」という話を耳にしたことがきっかけで、受け入れをスタートしました。働くことをより身近にその年齢なりに現実的に感じて頂きたいという思いです。

2012年4月~2013年3月の学校関係受入状況

実施月日	来場者	人数	目的
2012/6/28	障害者就労支援施設	11	見学
2012/10/23	区立小学校	61	社会科見学
2012/11/27	デザイン系専門学校	16	職業選択
2013/2/8	区立中学校	6	職場訪問
2013/2/26	東京都印刷業界団体	34	研修
2013/2/7	美術系大学	20	職業選択
2013/2/8	美術系大学	18	職業選択
2013/2/27	大学	3	職業選択

従業員とともに

日経印刷は印刷産業として従業員一人ひとりの力を集めて活動しています。風通しの良い、快適な職場環境とそこに働く従業員の意欲や創意工夫が技術の向上や知識の集約となって企業の発展につながっています。まもなく50周年を迎えようとする中で、より働き甲斐のある会社を目指しています。

人事理念・人事基本方針

人事理念

成長意欲を持って互いに切磋琢磨する皆さんをサポートします。皆さんに求めるものを明確にし、公正・厳格に評価することで皆さんの成長ひいては会社の発展につなげます。皆さんの成熟度に相応しい役割を担っていただき、会社への貢献度に応じて報います。以上をもって、皆さんが納得していきいきと働き続けたいと思える人事を行います。

人事基本方針

- 職種特性を生かした職種別役割ステージ制にします
- 計画性を持って厳格に運用できる評価体制にします
- 報酬制度は役割の拡大と報酬UPがつながる制度にします
- 成長イメージや教育の目安を明確に提示する教育サポートを行います

2012年新人制度の構築にあたり、人事理念と人事基本方針をこのように制定いたしました。企業理念から行動規範へとつながる思いを受けて人事理念を策定し、それを具体的な制度構築の方針に落とし込んだのが人事基本方針です。これにより従業員に求めるものを明確にし、成長意欲を持って役割を拡大してほしいということを打ち出しています。この人事基本方針について管理職を対象とした説明会も実施しました。評価制度、報酬制度については2013年度から運用を開始。また、2013年度は従業員の成長意欲をサポートするための教育体系の構築を進めていきます。

評価制度

人事理念に基づき、評価制度の見直しを行いました。従来の評価制度では年初に立てる目標を達成できたかどうかを評価基準にしていたが、人財を多面的に評価するため、評価シートに目標達成、役割、知識・スキル、人物という4つの象限を設けました。それぞれ、インプット（知識・スキル）、プロセス（役割）、そしてアウトプット（目標達成）、そして会社が期待する人物像を評価します。役割については役割ステージ要

件書、知識・スキルにはスキルマップといった付随する資料も作成し、社員の成長につながる評価制度になっています。

12月に管理職向けに評価制度説明会を実施し、2013年度から正式に運用を開始しました。

報酬制度

職種、役割に応じて適正に給与を支払うことを目指し、報酬制度も改定しました。評価制度に基づいて、会社への貢献度に応じて公平に分配することを念頭において制度設計を行いました。一方で従業員が安心して永く勤められる会社でありたいという思いもあり、年功要素も取り入れて、役割と年功を基本給のベースとしています。2013年4月の昇給にあわせて新報酬制度に切り替えました。

労災件数と労働安全衛生への取り組み

2012年の労災事故は7件と前年を上回りました。階段での転倒が2件、印刷機のステップで足を踏み外したものが2件、腰痛、器具の取り扱いのミスなどが原因でした。

また3件の通勤災害がありましたが、いずれも単独の事故でした。

労働災害件数（全て休業4日未満）

年度	2009年	2010年	2011年	2012年
件数	3件	7件	4件	7件

安全衛生委員会では毎月の巡回に力をいれています。従来は衛生管理者の有資格者が1名で行っていましたが、2012年は衛生管理者資格取得に取り組み、各部の責任者と総務部のあわせて6名が新たに資格を取得しました。そのメンバーが分担して職場の安全、衛生状況を確認しています。また、その巡回の際にあわせて情報セキュリティについてもチェックを行い、社内ルールが浸透して情報漏えいのリスクがない状態を維持できていることを確認しています。

安全運転への取り組み

当社では、約100人の社員が営業活動やパートナー企業への訪問、事業所間の移動などに社有車を使用しています。車両の運行にあたり交通規則の遵守と安全運転の徹底を目指し、春と秋の全国交通安全運動の時期に合わせて安全運転講習を実施しています。内容としては所轄警察署からの情報の周知やDVDの映像による危険予知・予測などのケーススタディが中心です。

2012年はさらに本社の所轄警察署の交通課交通総務の方にご協力頂き、万一の車両事故を想定した訓練を行いました。事故発生時の安全確保による二次被害防止、怪我人救護、通報などの指導と解説を実施しています。



所轄警察署による安全運転指導

健康管理への取り組み

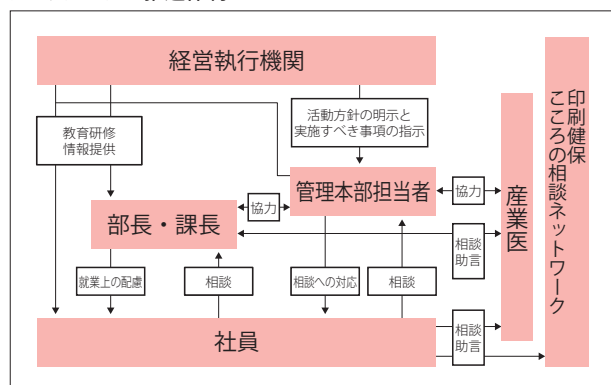
●メンタルヘルスケア

従業員が心身の健康を維持して生き生きと日々の仕事に取り組めるよう、メンタルヘルス対策に力を入れています。

従来から不調者の上司の連絡により月一度の産業医定期訪問時などに当該従業員との面談を実施していましたが、より広いメンタルヘルスへの理解と早期の気づき・対応を目的に2012年度は産業医によるラインケア研修を延べ49名の管理職に行いました。また、会社が実施している取り組みとそのフロー、様式などを明文化し足りない部分を追加した「健康管理マニュアル」を6月に策定しました。

さらに心の健康づくり推進計画の中でメンタルヘルスの社内相談窓口を設け、メンタル不調の早期対応に取り組んでいます。その結果、管理職から早期に情報があがってくるようになり、産業医面談やスムーズな休職・復職対応が行えるようになっていきます。

メンタルヘルス推進体制



●長時間労働に対するフォロー

単月80時間、6ヶ月平均で80時間を越える社員を対象に問診票を送り状況の確認を行っています。回答はすべて産業医がチェックし、自覚症状のあるものや本人からの希望に応じて産業医面談を行っています。

●健康診断後のフォロー

毎年実施している定期健康診断（夜間勤務の従業員は年2回）の結果を産業医と相談の上、必要と判断された社員には健康診断事後措置票を送り、通院・検査・治療を促しています。事後措置票はその結果報告も兼ねており、継続してフォローを行っています。

子育て支援制度利用状況

2012年度の子育て支援制度の利用状況は以下のようになっています。

●育児休業制度

1名が育児休業から復職しました。新たに休業する従業員はいませんでした。

●配偶者出産休暇

配偶者が出産した従業員が6名おり、そのうち5名が制度を利用しました。

●子の看護休暇

8名、延べ23日の利用実績がありました。

●育児短時間勤務

育児休業からの復職後、従業員からの申請に基づいて、通常の8時間勤務ではなく、6時間以上8時間未満での勤務を行っています。2012年度は3名が制度を利用して勤務しました。

社内報

2012年も四半期に一度、社内報を発行して社内の情報共有につとめました。取り扱ったテーマはCSRレポートの発行、グラフィックガーデン見学会、環境優良工場経済産業大臣賞受賞などがありました。



www.nik-prt.co.jp

日経印刷株式会社

本社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5
TEL. 03-6758-1001 FAX. 03-3263-5814

グラフィックガーデン

〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16
TEL. 03-6758-1000 FAX. 03-5392-6328

ハイデルベルグフロント

〒135-0023 東京都江東区平野2-3-14
TEL. 03-6758-1004 FAX. 03-3630-0826

浮間工場

〒115-0051 東京都北区浮間2-15-8
TEL. 03-6758-1005 FAX. 03-3966-0781

DTPスタジオ

〒383-0042 長野県中野市西条1315
TEL. 03-6758-1006

印刷通販株式会社（ユアプレス）

〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16
TEL. 03-6758-1010

